

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### I 調査の概要

#### 1 目的

ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成21年4月21日（火）

#### 3 調査対象

第3学年

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	84人	国語B	84人
② 数学A	84人	数学B	84人

#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」などの分析を併せて記載した。

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

実生活に活用する力・課題解決する力においては学習指導要領の「言語事項」、評価の観点の「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」が全国平均や栃木県平均を3%以上も上回っている。これは活用する力が確実に育ってきているためと考えられ、毎日朝の読書活動や授業等で培った力が実を結んだものと考えられ、引き続き読書や言語活動を進めていくと良いと考えられる。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	89.3	88.8	86.8
	書くこと	3	66.3	68.1	64.6
	読むこと	10	76.2	77.1	75.7
	言語事項	17	74.9	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	89.3	88.8	86.8
	書く能力	3	66.3	68.1	64.6
	読む能力	10	76.2	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	74.9	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	77.2	77.9	76.0
	短答式	14	76.4	78.4	78.4
	記述式	0			

##### 【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	71.2	74.5	72.5
	読むこと	11	75.4	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	70.2	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	71.2	74.5	72.5
	読む能力	11	75.4	76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	72.2	72.3	70.2
	短答式	3	85.7	83.9	82.0
	記述式	5	71.2	74.5	72.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【話すこと・聞くこと】

○平均回答率が知識面で全国平均よりもやや下回っているものの活用面では若干上回っている。適切な資料を提示することで、多くの生徒が理解している。

### 【書くこと】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。意見文に対する評価として適切なものを選択できない。自分の意見を正しく表現できない。

### 【読むこと】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈における描写を的確に読み取ることや、自分の考えを書くことに課題がある。

### 【言語事項】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだり、文脈の中で適切に使うことなどに課題がある。

### 【その他】

○文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることや作品の展開や心情の変化に着目して朗読したりすることは相当数の生徒ができています。

●複数の資料から整理して伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことや文章の展開や心情の変化に着目して工夫しながら朗読することに課題がある。

## 国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

### 《傾向》

○国語の勉強は好きですかという問いに対する答えは、どちらかといえば当てはまるも含めたところで、全国平均が56.7%、栃木県平均が59.5%に対して、本校は67.8%と上回っている。国語に対する興味関心が高いと思われる。

●目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりするのは全国平均よりも11.9%下回っている。訓練が必要であると思われる。

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

聞き手を意識して使用する語句を工夫することに課題があることを踏まえ、話し合い活動時に聞き手の立場を意識させたり語彙力を豊かにさせることを意識した授業を行う。

### 【書くこと】

意見文を書くことについての知識・理解に課題があることを踏まえ、行事の後に自分の考えをまとめるなど意見文を書く機会を作り、その中で意見文の書き方の指導を行う。

### 【読むこと】

文脈における描写を的確に読み取ることなどに課題があることを踏まえ、描写の部分を確認しながら、段落や文章の中身を理解させる指導を行う。

### 【言語事項】

漢字の読み書きの力をつけさせるとともに語義や語源などにも着目させて、言葉の根本を理解させる指導を行う。また、家庭学習でも漢字練習を習慣化できるように意識させる。

### 【その他】

意見文の書き方を練習するほか、敬語や場面に沿った効果的な話し方を理解させる。

## 2 数学

### 全体的な傾向

- ・ 数学 A の平均正答率は61%で全国平均より 1.7 ポイント低い。正答数の分布はまばらで、全国と比べ、12問、16問、19問、24問、26問の割合が高い。
- ・ 数学 B の平均正答率は全国平均と同じで、正答数の分布状況は8問～10問正答の割合が横ばいで、11.9%である。

### <分類・区別集計結果>

#### 【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	11	61.8	67.7	67.3
	図形	11	65.8	66.7	64.6
	数量関係	11	55.3	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	59.4	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	61.6	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	60.0	62.3	60.5
	短答式	13	62.5	66.7	66.1
	記述式	0			

#### 【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	57.9	63.0	61.4
	図形	6	58.5	59.3	57.5
	数量関係	6	54.8	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	52.7	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	67.9	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	85.7	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	63.3	63.3	61.6
	短答式	4	71.1	71.1	70.3
	記述式	5	37.9	41.7	40.6

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【数と式】

- A 領域の平均正答率は 61.8%で全国平均より 5.5 ポイント低く、特に、等式を目的に依じて変形する問題や一次方程式を立式するための数量の関係をとらえる問題などは全国平均より、10 ポイント以上低い。数学的な表現・処理や数量、図形などについての知識・理解に課題がある。
- A 連続する3つの自然数において、文字  $n$  が表すものを選ぶ設問の正答率は全国平均より4ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は 57.9%で全国平均より 3.5 ポイント低い。特に、1 段目に連続する3つの自然数を入れたとき、3段目の数が4の倍数になることを説明する設問の正答率は、34.5%で全国平均より 6.1 ポイント低い。筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することに課題がある。

### 【図形】

- A 領域の平均正答率は 65.8%で全国平均より 1.2 ポイント高い。特に同位角の位置にあるものを選ぶ設問の正答率は全国平均より 25.5 ポイント高い。
- A 扇形の面積について正しいものを選ぶ設問の正答率は 46.4%で全国平均より 10 ポイント低い。扇形についての理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 58.5%で全国平均より1ポイント高い。
- B 数学的な表現を用いて説明する問題や、三角形の合同を利用して証明する問題の正答率が全国平均正答率より4ポイント以上低い。方針にもとづいた証明に課題がある。

### 【数量関係】

- A 領域の平均正答率は 55.3%で全国平均より 0.9 ポイント低いが、 $2x + y = 6$  の解を座標とする点の集合がどのようになるか選ぶ設問の正答率は 41.7%で全国平均より 5.8 ポイント高い。
- A  $y = 3x$  について正しい記述を選ぶ設問の正答率は 42.9%で全国平均より 10.8 ポイント低い。比例定数の意味の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は 54.8%で全国平均より 0.7 ポイント高い。
- B 白熱電球を 1000 時間使用したときの総費用を求める設問の正答率は 57.1%で全国平均より 3.4 ポイント低い。表から必要な情報をよみとることに課題がある。

### 【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率が 37.9%であり、全国の場合と同様、選択式・短答式に比べて 20 ポイント以上低く、自分の考えを説明することに課題がある。

## 数学に関する生徒質問紙調査の状況

### 《傾向》

- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な意見は 52.4%で全国平均より 18.1 ポイント高い。
- 「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」に対する肯定的な意見は 57.1%で全国平均より 6.4 ポイント低い。

## 指導改善のポイント

### 【数と式】

- ・ 文字式の意味を身近で具体的な事象と関連づけながら数量関係をとらえさせる機会を充実させ、数から文字への移行を確実に定着させる。

### 【図形】

- ・ 不十分な証明や誤った証明を修正する活動を取り入れるなどして、見通しを持って証明を構成する活動を充実させる。

### 【数量関係】

- ・ 1次関数で日常的な場面との関連を図り、事象とグラフとの関係や、グラフの意味を読み取る学習などを取り入れ、数学的に処理したり解釈する力をつけるための機会を多くとり、問題解決ができるような活動をさせる。

### 【その他】

- ・ 計算の反復練習などを繰り返し行い基礎・基本の定着を図る。
- ・ 記述式の問題に対しても粘り強く取り組めるよう働きかけ、粘り強く取り組む機会を積極的に増やす。

### 3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

#### 《傾向》

- 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が75.0%と全国と比べて13ポイント高い。
- 「家の人と普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が95.2%と全国と比べて13.5ポイント高い。
- 「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が52.4%と全国と比べて15.9ポイント高い。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が92.9%と全国と比べて10.0ポイント高い。
- 「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が38.1%と全国と比べて14.7ポイント高い。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対する当てはまるという回答の割合が29.8%と全国と比べて11.7ポイント高い。
- 「（総合的な学習の時間）の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合が77.3%と全国と比べて16.8ポイント高い。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は59.6%で、全国と比べて13.1ポイント低い。
- 「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は59.5%で、全国と比べて9.8ポイント低い。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日どれくらいの時間勉強しますか」の質問に対する2時間以上の回答の割合は23.9%で、全国と比べて11.6ポイント低い。
- 「普通の授業では、生徒の間で話し合う授業をよく行っていると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は63.1%で、県と比べて19.6ポイント、全国と比べて8.5ポイント低い。

#### [生徒の傾向]

ほとんどの生徒が、家族と一緒に食事をし、早起き・手伝いをし、携帯電話の使い方の家族との約束を守ったりするなど、基本的な生活習慣・生活規律が家庭の中でもできている。成功体験が次への事柄の挑戦の意欲を高めている。地道な努力をいとわない生徒の割合が多い。また、地域の方々との交流も良好で、生徒の地域への関心も高い。ただ、家庭学習時間が少ないので主体的に学習意欲を持って行えることが課題である。